

「ちいき新聞」に載った
「咳神様」調査の思い出

蕨 由美

「ちいき新聞」9月9日号1面に、私へのインタビュー記事『祈ると咳が止まる』信仰つづく咳神様が載り、気付かれた友人からすぐにメールをもらい、また畠山さんにはFacebookで紹介していただきました。その後も、ご近所の顔見知りの方からもお声がけいただくこともあり、その反響に驚いています。

記事の内容は、私が高津の民俗調査で「咳神様」の存在を知ったいきさつと、八千代・佐倉市内の14カ所の咳神様を調べたこと、その例として、佐倉市大蛇町の「栗切り婆さんの墓石」を紹介され、また臼井田の「おたつ様」と八千代市米本の「すわり地蔵」の写真を載せてくださっています。

記者の方から取材のお申し出があったのは、7月30日。インターネットで、私の印旛沼周辺の咳の神様の研究に感銘を受けられたとのことでしたが、私が高津とその周辺の咳神様探しをしていたのは、なんと18年前の2004年のことでした。

高津の民俗調査でムラ内のツジキリを探していた際、「咳神様のところ」といわれた場所に行ってみると、目的のツジキリと同じ所に、「咳神様」と称される石塔が祀られ、湯飲みが供えられていました。

そのころはまた、高津観音堂でのオコモリに通い、念仏講のおばあさま方から、戦前の嫁入りや十九夜講、秩父講などの思い出話をお聞きしていたころでした。

この高津の咳神様についても、「チョウベの家には働きに来ていた男衆(おとこし)と女中がいて、許されぬ仲だったらしい。ある日一緒に駆け落ちしようとして村の境の辻切りの所まで来た時、追っ手が来て、潜んでいたのに、女のほうがかせをして捕まり二人とも殺されたんだって」。さらに「チョウベの家は、長い塀のある御大家だったらしい」とか、語呂合わせの尾ひれがついた話が続き、一方では、逃げたのは女中ではなくお姫様だったとも、つきることのない話を伺いました。

すっかりこのお話にひきこまれてから、あちこちの咳神様を訪ねて回り、その写真入りデータをHP「さわらび通信」にアップしていました。

咳神信仰を含む高津の民俗調査の結果は、『史談八千代』第29号の拙稿「高津のムラ境を祀る民俗」で報告しましたが、その後、この報告に付けた表「咳神信仰の調査リスト」の20件のデータのうち9件は、『八千代市の歴史 通史編』の表「咳神一覧」にも採用していただきました。

また、咳神信仰についてまとめた論考を、「地域を学ぶことのおもしろさ-路傍の石仏・道標・咳神様の調査から-」という題名で、房総地域文化研究プロジェクト記録集『房総を学ぶ』(2005年3月20日東京成徳大学人文学部発行)に寄稿、今回のインタビュー記事でも参考資料として使っていただきました。

今回の記事で「咳神様」にご興味をもたれた方は、『房総を学ぶ』の拙文もお読みいただければと思います。

(なお、「ちいき新聞」9/9号、また『房総を学ぶ』の論考をご入用の方は、蕨までご連絡ください。)



米本 すわり地蔵